

がん患者本音語ろう

28日宇都宮・NEWS CAFE

医師が「まちなか」往診

がんをめぐる悩みなどを患者、家族、医師らが肩肘を張らない場所で本音で語り合う「まちなかメディカルカフェ」が28日、宇都宮市江野町の「下野新聞NEWS CAFE」で行われる。21日には同市駒生町のとちぎ健康の森で、まちなかメディカルカフェや考え方のベースとなる「がん哲学」を提唱する順天堂大医学部樋野興夫教授（病理・腫瘍学）の講演会が開かれる。（山崎一洋）

21日「がん哲学」講演会



樋野興夫教授

同カフェ、講演会は県内の医師、ソーシャルワーカー、患者家族ら十数人でつくる「がんカフェとちぎ」（代表・平林かおる氏が主催する。平林代表自身、がんの経験者だ。現在は2人に1人ががんになるとも言われる時代。樋野教授は「がん末期になっても、人は対話を求め、それによって傷つきも、癒や

されもする」などと指摘。がんを通じ、その人が存在する意義をとらに見つめ、生きる力を取り戻す「がん哲学外来」を2008年から同大病院で実践。敷居を下げたカフェ形式も東京・お茶の水で開催している。がん哲学外来やカフェは共感した医師らによって全国に広がっている。

がんカフェとちぎの村井邦彦医師は、まちなかメディカルカフェについて「治療中心の医療機関ではなく、患者や家族がリラックスできる場所で、医師と

患者、ケアする人ときれる人という関係性を超えて語らえることが大切」と訴える。

同カフェでは参加者同士のおしゃべりのほか、希望者からは医療、介護の専門職が個別相談も受け付ける。

樋野教授の講演会のテーマは「病気でなくても病人でない」。午後1時半から同4時。定員は400人。参加費500円で申し込み不要。

まちなかメディカルカフェは午前10時から正午。定員は20人。まちなかメディカルカフェ「ホームページ」の専用フォームから、または氏名、連絡先、大まかな相談内容を記入してファクス02282・81・0881に申し込む。5月以降も月1回、日曜日に開催する計画だ。問い合わせは事務局の大久保クリニック、電話02282・81・0882か、村井整形外科0228・621・1541。